

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 2 年 11 月 5 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 16名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3871-000190
事業所名 (ユニット名)	ユニットぐんちゅう A棟
記入者(管理者) 氏名	森田 みずほ
自己評価作成日	令和 2 年 10 月 1 日

<p>【事業所理念】</p> <p>《理念》 悔いの残らないお世話をさせて頂きます</p> <p>《ケア理念》 和らかい言葉・温かい雰囲気・安心できる居場所</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>1.利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫感をもらさないよう、日中は玄関に鍵を掛けなくても済むよう工夫する。 ○「閉める一状況に応じて開ける」という意識から「開ける一状況に応じて閉める」と言う意識に替える。 ◎朝8:00～夕18:00まで玄関の鍵を開けている。しかし、地域の人たちとの話し合いの中で社会情勢(事件など)により「開けておく事」の怖さについて考えさせられる。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所は全体的に穏やかでのんびりとした雰囲気があり、利用者自身が職員と話し合いながら決めた思い思いの生活スタイルで過ごすことができている。ケア理念にある「和らかい言葉、温かい雰囲気、安心できる居場所」を感じさせる事業所となっている。日々の生活の中で、利用者と職員はともに声をかけ合い、安心できる生活を実現するための工夫が随所に見られる。また、事業所では利用者のリハビリにも力を入れており、毎日1時間程度体操を取り入れるなどの心身機能の維持にも取り組んでいる。さらに、法人・事業所として、エルダー制度の導入など人材育成に取り組んだり、昼休みや休日の取得にも配慮したりするなど、働きやすい職場づくりに努めていることもあり、長年勤めている職員も多い。</p>
--	--	---

評価結果表

項目No.	評価項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える								
(1)ケアマネジメント								
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	<p>a 利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。</p> <p>b 把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。</p> <p>c 職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。</p> <p>d 本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。</p> <p>e 職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	◎	◎	○	日常生活の中における観察をもとにして、職員は声をかけながら利用者の思いを聞き取りをしている。アセスメント用紙や日々の経過記録、申し送りノートなどで、利用者の思いを記録に残している。
2	これまでの暮らしや現状の把握	<p>a 利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。</p> <p>b 利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。</p> <p>c 本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。</p> <p>d 不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)</p> <p>e 利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>◎</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	◎	◎	○	入居前に、利用者の自宅等を訪問し、職員は家族や居宅介護支援事業所の介護支援専門員のほか、介護サービス事業所からも情報を得ている。また、入居後の利用者の暮らしの様子は、職員は見聞きした情報をまとめている。
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	<p>a 把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。</p> <p>b 本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。</p> <p>c 検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	◎	◎	○	朝夕の申し送り時のほか、15時頃に簡単なカンファレンスを行い、職員同士で情報を共有している。また、3か月に1回カンファレンスを実施している。利用者と職員は話し合いながら、思い思いの生活スタイルで過ごせるよう支援している。

愛媛県グループホームユニットぐんちゅう

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の言葉を大切にしその深層心理に迫る。また、そのために客観的にどのような支援が必要かを考える	/	/	/	各利用者の担当職員は話を聞きながら、計画作成担当者が介護計画を作成している。利用者や家族の意向も聞き、取り入れることができている。参加できない職員は前もってメモ書きを記載してもらうことで、意見を伝えている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人の毎日の言葉の中で、ご家族とは面会時などコミュニケーションに動機反映されるように努めている	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	意思の疎通が難しい方に対しても尊厳を保持し穏やかに安全過ごせるような内容に動いている	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	古くからの知人や家族の協力を盛り込んだ内容がある	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	日々の記録にケアプランを記入し、職員がいつでも確認しやすいようにしている	/	/	○	日々の記録には、介護計画の目標が記載されており、職員は目標を意識しながら記録できるよう工夫している。記録には、利用者のそのままの言葉を書き留めている。定期的に各利用者の担当職員を中心にモニタリングを実施し、利用者の状況を確認するほか、カンファレンスの記録もまとめて記載している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	定期的にモニタリングを行い介護計画に沿ってケアが出来ているかカンファレンスを行い、日々の支援に繋げている。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	日々の記録には、本人の言葉や行動・エピソードなど暮らしの様子や支援した具体的内容を記録している	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	気づいた事や取り組むこと医療について個別記録に記入している	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	三ヶ月・六ヶ月または状況に応じて見直しを行っている	/	/	○	定期的な介護計画の見直しのほか、利用者の状態が変化した場合には、随時計画の見直しをしている。また、定期的にモニタリングを実施して、評価している。カンファレンスでは各利用者の担当職員が情報をまとめて見直しを行い、計画作成担当者が介護計画を仕上げている。カンファレンスには、事前に家族からSNSや電話を活用して意見を聞くほか、利用者本人が話し合いに参加することもある。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	状況に応じてモニタリングを行い現状確認を行っている	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	入院や心身の状態の変化等により必要に応じて、現状に即した新たな計画を作成している	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	定期的・朝の申し送り時、又は必要に応じてその都度話し合う機会を設けている	/	/	○	朝夕の申し送りのほか、15時のおやつ時間を活用してミニカンファレンスをすることもある。定期的に開催するカンファレンスを含め、各利用者の担当職員が日程を決めることから中心となり、当日の参加者で検討している。当日参加できない職員は、事前に意見の書いたメモを渡してもらっている。カンファレンス記録を作成するほか、話し合われた内容は申し送りノートを活用して共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	多職種のメンバーが集まれる間環境を作り活発な意見交換の場に繋げるよう調整している	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	勤務表の調整や日程の調整を行い少しでも多くの職員が参加できるように努める	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	話し合われた内容は報告書を経て、または申し送り・申し送りノートを活用し周知に努める	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りノート・個別記録を活用し、朝夕の申し送りで全体について、一日に流動的に起こる出来事についてはその都度共有している	/	/	○	職員は最近の記録をまとめたファイルや申し送りノートを、毎日出勤時に確認して情報共有をしている。申し送りノートの確認後に、職員はサインをしている。また、昼の休憩時間を活用して、職員はミーティング記録等も確認している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	申し送り・申し送りノート・個別記録を活用し情報の共有に努めている。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	生活の中で、臨機応変に支援することを意識し、難しい場合でも調整する努力を行っている	/	/	/	行事や事前に決めている事柄もあるが、日々過ごすスケジュールは利用者本人と職員が話し合い、できる限り利用者によって決められ、本人に合った生活スタイルで過ごせるよう努めている。新聞紙のゴミ箱づくりや塗り絵、植木の水やり、花を活けるなど、職員はやりたいことの中から、利用者本人の希望で決めた内容をしてもらうことができている。食事のリクエストを聞いて取り入れたり、お茶やコーヒー、紅茶などの飲み物も利用者によって選んでもらったりできるよう支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	時間や環境の許す限り、花を摘んだり神社へのお参りなど、日々の暮らしの色々な場面で利用者の自己決定を促している	/	/	/	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	利用者一人一人の言葉や態度表情をよく観察し、本人のこだわりや希望に合わせてケアを出来るように努めている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	生活リズムが崩れないよう配慮しながら一人一人のペースやタイミング習慣を大切に支援している。	/	/	/	
		e	利用者の活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	ケア理念にある和らかい言葉、温かい雰囲気や大切にしたい利用者の笑顔を引き出せるよう努めている	/	/	/	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるように支援している。	○	ケアを行う際には丁寧な声掛け、介助を行い表情やしぐさを観察し、本人の意向に添えるよう努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	定期的に不適切な対応・言動について話し合う機会を作り、常に意識できるよう努め行動している	◎	◎	○	利用者本人の希望に合わせて、日常的にも居室の扉を開閉している。トイレや入浴の際には、職員はさりげなく声かけを行うなど、利用者のプライバシーに配慮している。また、来訪者や電話の問い合わせについても、職員は利用者を確認して対応することができており、「○○さん、電話問い合わせNG」などのメモを貼って職員間で共有することもある。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	利用者一人一人に合った声掛けやタイミングを見計らい、目立たずさりげなく支援できるよう努めている	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	トイレの扉が両側が開くことで、車椅子での利用者もプライバシーを守りながら安全に使用できるようにしている	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	一人一人の要望や、心身の状況により十分に配慮しながら出入りを心がけている	/	/	/	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	職員は本社面談にて、プライバシーの保護等の説明を受け理解し守っている	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者によって助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	人生の先輩である利用者から教わることは多く、感謝しあえる関係性を築いている	/	/	/	利用者同士の仲がスムーズにいくように、職員は利用者がしんどい思いをすることがないように席の配置を検討している。職員は様々な活動や作業を利用者にお願ひし、実施後に職員から、「助かっている」と感謝の声をかける関係性が築かれている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者同士の特性を生かし助け合い支え合える場を意識している	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	時間帯や状況により席の配置を替え、孤立する事のないよう、また共同生活が安心して行えるよう配慮しながら支援に努めている	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルの起こりうる場面についてスタッフ間で情報を共有し、トラブルを未然に防げるように努めている	/	/	/	

愛媛県グループホームユニットぐんちゅう

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	アセスメントを主として、日々の会話や家族との会話に努め、本人を取り巻く人間関係についてスタッフ間で共有している	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人の話や家族・地域の話をもとに、把握し職員間で共有している	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	家族の協力やスタッフ対応にて墓参りや知人宅に行くなど本人が大切にしてきた場所や人などの関係性が途切れないように支援している	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	時間を問わずいつでも気軽に来て頂き、玄関先やホール、居室等その時の状況に合わせゆつくりと過ごしてもらえるよう工夫している	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	自宅の様子を見に行くなど、利用者の希望に沿って戸外に出掛けられるよう支援している。また難しい時でも、利用者と一緒に日程を調整し希望にそえるよう努めている。	○	△	○	事業所周辺を散歩したり、ドライブで花見やいちご狩りなどに出かけられるよう支援している。現在のコロナ禍で外出は控えているが、天気の良い日には、毎日近くの神社に散歩して出かけたり、外に出て外気浴ができるよう支援している。不穏な利用者には外に出ないものの、玄関で飼育しているウサギを見ながら、気分転換してもらうこともある。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	ボランティアや認知症サポーターに協力してもらう事はない	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	重度の方でも体調を見ながら、庭で太陽や風を感じて頂けるよう支援している。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	日常の会話の中で行きたいところ、行けそうな所を模索しているが出掛けた事例はない	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	職員全員が研修会に参加し勉強している。研修報告書を用いて知識を共有している	/	/	/	法人・事業所として、利用者のリハビリにも力を入れており、肩こり体操を取り入れ、肩こりが治った利用者も多い。生活機能の維持・向上に関する専門職からのアドバイスを活かして、利用者の生活上の活動にも取り入れている。また、毎日利用者は昼の時間帯に1時間程度運動を行い、身体機能の維持にも努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	主治医・看護師・係りつけ医・行療法士等と相談しながら一人一人の状態に合わせ維持・向上が図れるよう生活機能向上プラン計画を作成し取り組んでいる	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	更衣や洗面、入浴やトイレ内では出来そうなことが多く見守ったり一緒に行うよう心掛けている	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	本人や家族の話聞きながら、その有する能力について考え、今現在、どのようなことが楽しみや役割になるのかを考え話し合っている	/	/	/	玄関の花を活けることや植木の水やり、掃除、新聞紙のゴミ箱づくりなど様々な役割があり、職員は上手に声をかけながら、利用者一人ひとりができることを行えている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	眠る前のお勤め(般若心経を読む)を勧めたり、湯船に浸かる時間に一曲歌うなど一人ひとりに応じた支援を心がけている	○	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地方祭や地域の集まり毎に参加する事で楽しみや張り合いを持つことが出来ている	/	/	/	

愛媛県グループホームユニットぐんちゅう

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	朝の身支度や入浴時など、本人と相談しながら用意している。季節に応じた服装等そつと助言している				利用者本人にタンスから衣服を選んでもらい、整髪も自ら行っている利用者もいる。服の乱れなどが見られる場合には、職員が利用者に配慮しながらフォローをしている。2カ月おきに、訪問美容を活用して、散髪などの整容もしている。また、重度の利用者も着替えて外出やリビングに出たり、マッサージを取り入れた支援もしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	本人の希望に応じ、家族に相談したり一緒に買い物に行くなど本人の好みに整えられるよう支援している				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	自己決定がしにくい利用者には、家族に相談したり、本人の表情や言葉を観察しながら支援している				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	個々の用意した服は普段の着やすい服が多いが、本人のこだわりを監視しながら外出時に一緒に選んでいる				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	タイミングを見計らい、さり気なく助言・お手伝いしている	◎	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	希望の理容室へ家族と行く人、知人の理容師に訪問してもらう人もいる				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	訪問理容の方と相談しながら、本人らしい髪型にしてもらっている			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	主治医からの指示や栄養士の助言に従い栄養状態を把握しながら食事の楽しみや大切さを意識している				外注業者が献立を作成し、メニューの食材を配達され、職員が調理している。利用者のリクエストを取り入れたり、業者の献立を選んでもらったりするなど、食事に関する気持ちを持ち続けてもらえるように配慮している。湯呑みと茶碗は利用者自身の物を使用し、食器類は陶器を使用して、暖かい雰囲気ですべて食事をしている。配膳や下膳の手伝いは利用者自らしてもらっている。職員は普段の食事時間は休憩を取りながら情報交換などを行うことを重視し、月に1～2回のイベント時に利用者と一緒に食卓を囲むスタイルとしている。また、事業所には栄養士もおり、協力医に相談して糖尿病などの疾患に対応した食事メニューなどの工夫をしたり、おかゆやミキサー食など食事形態にも対応したりしている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者ともに行っている。	○	野菜の皮むきやもやし、根切りなど個々の利用者の特性を生かし一緒にやっている			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	週に数回いなりや草餅など、普なじみのものを一緒に作り教えて頂いたりしている				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	入居時のアセスメントで把握している。生活の中でも観察し、苦手な物等冷蔵庫にメモ書きをしている				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	◎	メニューは外部で作成しているがそれを基に栄養士に相談しながら、利用者さんと季節を感じる料理や、懐かしいおやつなどを楽しめる内容を取り入れている			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いらずや器の工夫等)	◎	利用者一人一人の状態に合わせて調理方法や盛り付け分量を調整している。ミキサー食で過ごしていた利用者の身体機能の向上に伴い普通食へと変更することが出来た例がある				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	茶碗や湯飲みは出来るだけ陶器を使用している。風合いや使いやすさを重視している			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	職員の休憩時間を確保するために食事を別にしている。職員は一人一人の様子を観察しサポートを行っている。月に数回イベント食を行い職員も同じ食卓を囲めるようにしている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	献立の内容を伝えながら食事介助を行っている。楽しい中で食事が出来るようみんなと一緒に食卓を囲み、雰囲気づくりに配慮している	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	一日の水分摂取量や食事摂取量が集計されており、栄養士・看護師は定期的に評価している				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	本人の好む飲料または食べもの(食べ方)を勧める。主治医に相談し栄養補助飲料等を活用し低栄養や脱水を防ぐ				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	利用者の日々の心身の状況に合わせて職員でその人に合った調理法形態について話し合い調理している。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	使い捨てビニールエプロンを着用、魚やお肉を調理するときは手袋や別のまな板を使用している。調理用具・食器類は洗浄後乾燥機を使用してから収納している				

愛媛県グループホームユニットぐんちゅう

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	歯科医に口腔衛生管理の助言を頂き、必要性重要性の理解に努めている				毎食後等には、脱衣場にある洗面台を使用し、歯ブラシや歯磨き粉を準備しておき、できる限り利用者自身で行ってもらっている。毎月歯科医の訪問があり、歯科医や歯科衛生士に相談して、日々の口腔ケアや口腔体操を行っている。口腔内の異常が見られた場合には、歯科医の往診等につなげている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	食事の様子や食事を観察し異変を予測し口腔ケア時に状態を確認し早期発見に努めている			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	訪問歯科や歯科衛生士からその人に合った口腔ケア方法について指示、情報をいただき支援に活かしている				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	拒否がある場合は時間をかけて声掛けしたり、お茶を飲んで頂き残渣物を流殺菌する等状況に合わせている				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	一人ひとりに合わせたタイミングや声掛け準備を行い、口腔内の清潔が保て、利用者の力が引き出せるように支援している			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	発見次第、歯科医師や歯科衛生士に相談し往診や受診などの対応を取っている				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	職員は施設内・施設外での研修に積極的に参加し排泄の自立の重要性について学び、本人の出来る事に着目しながら排泄の自立に繋がるよう支援に努めている				職員は、利用者一人ひとりの排泄のタイミングを把握しており、利用者の状態を観察しながら声をかけてトイレ誘導をしている。事業所では下剤に頼らない支援に努めており、牛乳や寒天などの排泄を促しやすい食材を活用するほか、職員は体操やマッサージ、ツボ押しなども取り入れる工夫をしている。昼夜ともに、おむつをしている利用者もいるが、布パンツにパッドを使用して過ごす利用者も多い。排泄用品の使用についても職員間で話し合い、利用者や家族に確認して使用している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	主治医や看護師からの説明や勉強会等で理解できている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排便チェック表や個人記録に記録し、個々の排泄状態を把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	日々の生活の中で状態観察を行い変更が必要な時は家族に相談している	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	排便チェック表をもとに主治医や看護師に相談して改善に向け対応している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄の失敗の多い方や緩下剤を服用した方には、早目に声掛け誘導を行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	理解できる方には、本人に解り易く説明している。重度の方には、家族に状態を詳しく相談して、同意を得ている。職員の一方的な選択はしていない。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	◎	適時使い分けを行っている				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	個々に合わせた水分補給に努めている。毎朝の体操や伊予踊りで体を動かしたり、自然排便を促す取り組みを行っている				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	◎	基本入浴日を決めていますが、一人一人の希望や習慣に近づけることが出来るよう支援している	◎		○	一般的な個別浴槽の中に座れるような段があり、利用者は週2回以上入浴をすることができる。管理者等は、「入浴は職員とゆっくりと会話ができる場である」と捉えて、職員は利用者との会話をしながら楽しく入浴できるように配慮している。職員は手を出しすぎず、自分で洗うなどできることはしてもらおうよう支援している。また、好みの入浴剤や愛用の洗顔を使用している利用者もいる。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	利用者一人一人のペースを大切にゆっくりとくつろいで入浴できるよう努めている				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来る事は本人にして頂く。全介助が必要な場面では二人で介助することもある				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	言葉かけに工夫して、なるべく入浴を勧めるが、本人が嫌がる時は、決して無理強いはいしていない。日を変更することは、度々あった。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	毎朝のバイタルチェックや本人の状態を確認し、看護師に相談している。入浴を清拭に変更することもある。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	ほぼ把握できている。不穏状態・排便の様子によっても左右されることを念頭に置いている	/	/	/	職員は利用者の日中の運動量を多くし、昼寝も1時間程度取り入れるなどの生活スタイルで、夜間はよく眠れている。眠剤を服用している利用者もいるが、医師と相談しながら対応している。眠れない日が続いても、職員は時間をかけながら利用者の生活リズムを整えるよう努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	時間をかけゆっくと生活リズムを整えるようにしている	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	眠前薬を服用している利用者2名。夜間の状態を申し送りし、日中の過ごし方や出来事を話し合い、医師と相談しながら良質な睡眠が出来るよう支援している。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	朝食後や昼食後声掛けを行い本人の意思応じて又は必要時休んでいただく	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	携帯電話を使用している方・タブレットでテレビ電話を行う方・スタッフルームから家族にお電話される方、それぞれの希望に添いながら支援している。	/	/	/	/
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	季節の絵手紙など一緒に作成しお送りしている。タブレットを使いテレビ電話と一緒に面会・お話をしている	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	一人一人の状況に応じてスタッフが側で見守ることもあった	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いたお手紙や葉書には本人・スタッフが文章や絵手紙など出来る範囲でのお返事を心がけている	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	希望時には、ご家族の都合を確認しながらお電話をしたり、面会が難しい時でもお手紙を頂くなどしてもらっている	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	利用者が所持金を持ち、自由に使えることは良い事だと理解する。	/	/	/	/
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	お金の所持はないがスタッフ同行の元ホームの財布で金を払う機会を作っている	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	靴の購入などは、業者ではなく商店街の靴屋さんに行っている。状態や症状の理解を得ながら利用者に向けた靴選びをお店の方と利用者と一緒にしている	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族と相談しながら希望・能力に応じて所持している人もいる。難しい利用者にはスタッフ同行により使える場面を提供している。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	本人家族と話し合っている。お互いに納得が出来るよう話し合いを重ねている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	基本、金銭管理は家族にお願いしている。金銭管理が出来ない生活保護の方は書面上での同意の上、会社で管理・保管している	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	身寄りのない生活保護利用者について長寿介護課・生活保護課・成年後見制度を利用し担当者会議を行い今後の支援について話し合った	◎	/	○	利用者や家族の希望に応じて、職員は家族との面会に同行したり、自宅に荷物を取りに帰ったりするなどの援助をしている。利用者や家族の希望に、職員は柔軟に対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	建物まわりに外壁はなくオープンな雰囲気である。庭には、木や草花を植えている。玄関は明るい印象である。	◎	◎	○	日中玄関は開けたままにしており、玄関外にはベンチが置かれている。日当たりがよく、明るくて入りやすい雰囲気となっている。また、玄関横には畑があり、野菜を栽培は農業高校の高校生が指導してくれている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	共有の空間はシンプルに整えられており清潔感がある。壁やスペースには利用者で作成した作品や利用者の手の届く範囲に生活用品(湯飲みや急須・ハンガーや洗濯バサミやほうきなど)が置かれている。玄関には近所の方作品が飾られている	○	○	○	共有空間には大きな字のカレンダーや日めくりがあるほか、歌詞や利用者が作った作品も飾られている。毎朝、職員が掃除し、天窓からの明かりもさして明るく居心地の良い空間となっている。玄関ではウサギを飼育しており、利用者は楽しみにして見に行っている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	主要道路と離れており不快な音や匂いは感じられない。毎日の掃除や整理整頓も利用者と一緒にやっている				
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	各部屋の窓辺にはハナズキ・桜・畑など楽しみがある。また居室利用者と相談しながら仲の良い利用者と一緒に窓辺で過ごしてもらう事もある				
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	一人部屋だが仲の良い利用者同士でお茶を飲みながら外を眺めたり、本人の意思で扉を開け閉めして過ごしている				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	トイレや浴室はホールからは見えない設計になっている。洗面所から脱衣場が見えないようカーテンで仕切りをつけている				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入所時に本人の馴染みの物の持参を声かけている。生活していく中で本人が取り組んでいることをまとも写真や文集など新しく馴染みの物になるよう工夫している	◎		○	事業所ができて年数が経過していることもあり、順次居室の壁紙を張り替えている。居室には、ベッドやたんすなどが備え付けられている。居室の表示は、色や大きな文字を活用してを分かりやすくし、室内には馴染みの物を置いて利用者が自由に寛げるようにしている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	トイレの場所を記す張り紙は「赤い花」と「青い花」に置き換えたり、机や椅子には必要に応じて名前を貼るなど一人一人に合った工夫や声掛けをしている。			◎	お手玉や折り紙、本、パズルなど、利用者は自由に取って思い思いの活動をしたり、新聞紙の箱折りづくりなどをしたりしている。事業所内の表示に関しては、トイレの表示などに色をつける工夫をするなど、利用者に分かりやすくしている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	一人一人の特性によりテーブルの位置や物品の位置等検討し認識違いや判断ミスが少ない環境を工夫している				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	整理整頓をしながら個々の趣味や能力に合わせて、色々な物品を置いている。新聞・チラシ・本・モップ・裁縫道具・編み物道具等・安全面に配慮している。				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	代表者及びすべての職員は玄関に鍵をかける事の弊害を理解しており居室や各棟の出入り口の鍵はかけていない。玄関の鍵を掛けない事について、不審者などの出入りも想定する必要があり課題を感じている。	x	x	○	日中玄関のカギは開けており、ユニットの入口も自由に出入りできるようになっている。夜間は防犯面のため、玄関は施錠している。玄関でウサギを飼っていることもあり、利用者は玄関にウサギを見に行くこともあり、職員も一緒に付き添い見守りしている。ウサギのいる玄関は、利用者のくつろぎの場としても活用されている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	玄関を開錠している時、インターホンやお声掛けただくことなくご家族が利用者居室へ訪れていたことがあった。左記の内容とは違う角度からの安全の確保について話し合いがもたれた。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	玄関は朝8時～夕方18まで開錠しており、自由に行き来できる環境を目指している。外出傾向を把握し安全に努めている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入居時のアセスメントにて把握、バイタル表に一目で分かるように既往歴・定期薬・処置ケアがあり確認できる				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	毎朝のバイタルチェックや本人の表情、訴えにより異常の早期発見に努めている。日勤者と夜勤の申し送りを密に行い個人記録に残している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	医療連携看護師が24時間対応しているため気になる事はその都度相談している。また、看護師より、普段からかかりつけ医へ連絡相談を行い重度化の防止や適切な入院につながるよう努めている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入居時に本人・家族が希望する医療機関を確認している。入居後も変更等を希望する場合は相談に乗っている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	訪問診療を受ける方と病院受診する方がいるが、納得が得られた主治医との関係が出来ている。訪問診療時は看護師から状態を詳しく伝え、病院受診の方は書面での情報提供を来こなっている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診結果は、家族に伝えている。又、職員にも伝えたりメモ書きすることで全員が把握できている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時には、本人に関する情報を医療機関に提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	定期的にお見舞いに行き本人を元気づけると共に医療機関からの情報を得ている。家族との連携も密にとっている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	日頃からの関係を大切に、長く交流が出来ている。部屋の空き情報等も伝えており、お世話になることが多くあった。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	職員は気になる情報や気づきを医療連携看護師や訪問看護師に伝え相談している。24時間医療連携体制をとっており介護職は安心して業務をこなしている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	医療連携看護師が24時間対応を行っている。看護師より協力病院への相談や協働を行い連携できている				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	医療連携看護師の配置・主治医との連携、家族との話し合いを重ねている。訪問看護を利用し状態変化に対応している例がある				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬剤師からの指導や医療連携看護師から薬についての知識を得られている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	薬剤師・看護師・職員・本人が確認し飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	便秘時には、排便チェック表をもとに緩下剤を投与している。その際は看護師に確認している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	状態観察をし記録している。訪問医療時、看護師から主治医への状態報告をしている。				

愛媛県グループホームユニットぐんちゅう

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	家族の気持ちや状況は日々変化していくため、その都度家族と共に考えその意思を確認している	/	/	/	法人・事業所として、「重度化した場合における(看取り)指針」を作成し、入居時などに利用者や家族に説明して同意を得ている。また、終末期が近づいた時にも、説明のうえ再度同意を得ている。常勤看護職員に加えて、協力医や法人の看護職員の協力も得られるなど、事業所での看取り介護の協力体制は整っている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	事業所の方針を始め、かかりつけ医・協力医療機関との連携に勤め職員間でも共有出来るように努めている	◎		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	終末期の対応について職員にアンケートを行ったうえで看取りについての資料を使い現状での支援について話し合いを行った	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	「看取りの指針」「できること・できないこと」について医療連携看護師より詳しく説明している。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	重度化・終末期・看取り等は特別な事ではなく自然な事だと話し合っている。主治医の指示に従い、看護師と相談しながらチームで支援していく体制を整えている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	普段から家族となるべく多く話そうにしている。家族間の事情や心情の理解につとめた支援を意識している	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	感染委員会は年に2回以上、感染症内部研修は年に1回以上行い知識を得ている。スタッフ会議で感染対策委員から汚物処理の指導を受けた。	/	/	/	/
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	感染症発生疑いのデモンストレーション・感染委員会の発足・感染症予防対策を定期的に行っている。また職員の意思を確認し法人内での協力体制を整えている	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	テレビや新聞、インターネット等からの情報を入手している。また事業所内で情報を交換している。県内での感染症発生事例について、勉強会を行い情報の共有に努めている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	管理者・看護師は県の「応援職員登録票」(感染症の影響を受けた施設等の派遣)に記載登録を行っている	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなども徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員・来所者は健康チェック表に記入している。県の感染症予防の対策に従い清潔が保持されるよう徹底している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	家族の面会時には、本人の日頃の状態を詳しく説明するようにしている。本人がよりその人らしく生活できるよう家族と話し合い支援に繋げている。	/	/	/	職員は、家族に電話やSNS、お手紙などを活用して、利用者の近況を伝え、意見や要望を聞いている。毎月、事業所便りを家族に送付している。家族の面会に加えて、昨年度は運動会や芋炊きなどの行事の機会にも、家族の参加が得られている。また、事業所の様子は、運営推進会議の中で報告し、看取りに関する報告なども行っている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	感染症予防の観点から来所の機会は減っているが、感染対策による面会やタブレットでのオンライン面会などの対応を行っている	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	運動会・芋炊き・秋祭りなど家族が参加できるような行事を行っている	/	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	行事や日頃の生活の写真入りのホーム便りを定期的に郵送している。キーパーソンだけでなく多くの家族へのホーム便りの送付も行っている	/	◎	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	家族からの知りたい事や不安な事の相談にはその都度対応した。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会が頻回にある家族には、良い関係が長く続けられるよう、また、疎遠の家族には本人の状態を伝え面会の機会つくっていただくようお願いした。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得ようとしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営上の事柄や出来事はその都度、または運営推進会議にて報告し理解・協力をえている	/	/	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	行事事に参加した家族は少なく家族の交流までには至っていない。家族会や旅行の機会もなかった。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	不安感のある利用者の支援策としてご家族に協力を得ながら安心できる環境について話し合い対応をおこなっている	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	家族が意見を遠慮なく言える雰囲気作りを心がけている。来訪時には積極的に声掛けを行ったり電話やラインを利用しコミュニケーションに努めている	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約内容の変更は文書を送り、面会時にも情報を提供できるよう努めた	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	利用者・家族の意見を聞き相談のうえ次の受け入れが決まってから退去に至っている。トラブル等はない。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時には、契約書に沿って詳しく説明している。納得・同意の上、書面上で契約している。一部は家族控えて保管して頂いている。おむつ代金変更があったが、その理由と変更金額を書面で報告した。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	地域運営推進会議や避難訓練などで事業所の目的や役割などを説明し理解を図っている	/	○	/	日常的に近隣住民と挨拶を交わしたり、地域行事などに参加したりする機会を活用して交流をしている。事業所として、地域の防災訓練にも参加している。中学生の職場体験や高校生の野菜栽培などのボランティアを受け入れたり、幼稚園児や小学生との交流をしたりしている。野菜を差し入れてくれる地域住民もいる。また、管理者等は、運営推進会議や事業所の行事案内をするなど、地域住民の事業所への来所を促し、地域の理解が深められるよう努めている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	近隣の方とは、日常の挨拶・秋祭りやお茶会など様々な交流に努めている。地域の活動(避難訓練)に参加している	/	×	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	行事や勉強会など地域の方たちの来所が多くなり、見守ったり支援してくれる人達が増えてきている	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	秋祭りや芋炊きなどを庭で行う事により地域の方が気軽に立ち寄って下さっている	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	◎	近隣住民が伊予市の広報を利用者に持ってきてゆっくり話をしたり季節の野菜を頂いたりするなど日常的なお付き合いをしている	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	推進会議や、活動報告や行事案内などを用いて近隣住民に働きかけを行っている。活動の支援とまではいかないが、行事などで、地域住民の来所により利用者との関係構築を築いている	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	◎	馴染みの理容師の訪問を受け利用者本人が豊かな暮らしを継続することが出来ている	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	高校生の課外活動(園芸セラピー・傾聴ボランティア)幼稚園の運動会参加や避難訓練の実施など、日頃から関係を深める取り組みを行っている	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	運営推進会議には、毎回決まった方の参加が多い。感染症予防のため今年に入り自社のみで行っている。	○	/	○	運営推進会議は、利用者や家族、民生委員、市担当者等が参加して、年6回実施している。今年に入り、新型コロナウイルス感染症対策のため、書面での開催となっている。以前より会議への家族の参加は増えつつあり、参加していない家族には資料など会議報告を送付している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	毎回、利用者の入居状態と生活上の状態報告をしている。自己評価・外部評価の内容と取り組み報告もしている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	地域運営推進会議の内容の結果は、毎回、市役所長寿課と本社に報告している。地域への報告は訪問し対面で報告をしている。	/	△	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	感染症予防の観点から今年の開催は自社のみとなっているが書面にて各所報告を行っている。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	推進会議の議事録は市役所・地域包括支援センターへ公表している	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	「悔いの残らないお世話をさせていただきます」を基に「和らかい言葉・温かい雰囲気・安心できる居場所」をケア目標とし、第二の我が家になるよう、職員皆で日々取り組んでいる	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	ぐんちゅう便りに記載したり、玄関・ホールに「理念」「目標」を掲示するなどしている	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	実践者研修・相互研修・リーダー研修・管理者研修などの研修を受けることが出来るよう取り組んでいる	/	/	/	新入職員には、エルダー制度を活用して教育が行き届き、年3回以上の研修参加の機会を設けることで、長年勤める職員も多い。法人・事業所として、昼休みや休暇の取得への配慮も十分になされており、働きやすい職場づくりができています。常日頃から、管理者は職員と会話し、意識して働きやすい職場となるよう努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	スキルアップに必要な資格取得に必要な費用など会社が一部負担してくれている。主になる資格取得には勤務調整・全額負担など行うこともある。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	年に二回の自己評価や毎月の管理者会での情報等を元に職員個々の勤務状況を把握し各自が向上心を持って働けるよう職場の環境条件を整備している	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	一般社団法人愛媛県地域密着型サービス協会に加入し相互研修等参加している 市内のグループホーム・ネットワークに参加し、連絡会・研修会に参加している	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	休日希望・有給休暇や個々の職員の個性や特技などが生かせる様な職場づくりをしている	○	◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	年2回の内部研修を行い理解している。参加できなかったスタッフには資料を提供している	/	/	/	内部研修のほか、法人全体で「身体拘束・虐待防止」をテーマに取り上げた研修を実施し、職員は理解している。不適切な対応が見られた場合には、意識して職員同士が注意し合っている。また、定期的に身体拘束・虐待防止委員会を開催し、話し合いができています。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	管理者は通常の介護業務を行い職員と共に日々のケアについて振り返ったり話し合ったりしている	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	職員がお互い注意し合える環境づくりに努めている	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	疲労が溜まらないよう勤務調整している。支援の難しい利用者には一部のスタッフのストレスにならないよう全員で対応するようにしている	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	年2回の内部研修にて知識を得ている	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	年4回身体拘束・虐待防止委員会開催し現場の状況に照らし合わせ点検、話し合いを行っている	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	今は対象者はいない 玄関など可能な限り施設せず開放的な雰囲気になっている	/	/	/	

愛媛県グループホームユニットぐんちゆう

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	○	研修など参加し知識を広げようとしている				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	悩みや相談事には日頃から親身になって話を聞くように心掛けている				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	弁護士に相談できる体制がとられている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	事故発生時に備え対応マニュアルを作成し周知している				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	消防署での勉強会に参加したり、看護師の指導を受けるなど実践力を身に付けている				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	事故に繋がらぬ小さなこともインシデント・アクシデントにまとめている。毎月の安全委員会で話し合い改善策をとっている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	日々の暮らしの中での気づきを大切にしている。気になることは放置せずその都度見直し・改善している。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応のマニュアルを作成し適宜対応方法について検討している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情は寄せられていないが速やかに手順に沿って対応できるようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情は寄せられていないが速やかに手順に沿って対応できるようにしている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	介護相談員が2か月に一回来所し、利用者の思いや・悩みを聞き、助言を行ってけている			○	利用者からは、馴染みの職員が普段の会話の中で意見を聞くほか、定期的に訪問のある介護相談員からの情報も得て、利用者とのかわりを見直している。家族からは、面会や電話連絡時に意見を聞いている。また、事業所内に相談窓口や意見箱を設置しているほか、法人本部にも相談できる場所があるなど、多くの窓口を設けている。職員からは、管理者が目標シートを活用しながら年2回話し合う機会があるほか、普段の会話で意見を聞き、事業所運営に活かしている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	法人事業所の相談窓口があるが、個別に伺う機会が多い。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	意見を聞いている事業所の相談窓口や意見箱の設置があり、相談をもって行かれたケースがあった。法人関係者・ご家族・事務局での話し合いがあった。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	年に2回個別に面談を行い職員の思いを聴く機会を持っている				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	日頃から、職員一人一人とのコミュニケーションに勤めると共に、目標シートの評価や自己評価等により多くの意見や提案を聴く機会を持ち、常に一緒に利用者本位について考えている			○	

愛媛県グループホームユニットぐんちゅう

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	サービス評価の意義や目的を理解し、年に2回自己評価に取り組んでいる。				自己評価は職員全員で取り組んでいることもあり、職員は理解できている。自己評価やサービスの評価結果から、職員が課題に関する目標達成計画を作成し、取り組みを進めているほか、年2回取り組み状況を確認している。サービス評価の結果は、運営推進会議で報告し、参加者から意見をもらっている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	職員は、自己評価を通して事業所の現状を見つめ直し、課題を明確にして意識統一している。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	結果を踏まえ目標達成計画を作成し、事業所全体で取り組み継続している				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	評価結果と目標達成計画は、地域運営推進会議にて、家族・市役所・地域内法支援センター他各責任者に報告している。	x	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	事業所内や地域運営推進会議にて目標達成計画の取り組みを報告している。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	様々な災害時の対応マニュアルがスタッフルームに置いてあり、全職員が周知出来るようにしている。				年2回、消防署や電気保安協会などの立ち合いのもと、昼夜等を想定した避難訓練を実施している。訓練には、近隣住民の協力も得られている。事業所として、災害に対するマニュアルが整備されているほか、3日分の水や食料などの備蓄品を用意している。法人が運営する他の2か所のグループホームの避難拠点を当事業所をしているため、実際に避難する訓練も実施している。また、地域の防災訓練にも参加協力ができている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	年2回の避難訓練は、消防署立会いの下で行っている。火災時の地震時の避難訓練(昼間・夜間の想定)ができた				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常食・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に消火設備、避難経路、非常食の食糧や物品の点検を行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	推進会議や避難訓練など日頃から地域住民や話し合いや訓練の場を持ち協力支援体制を確保している	x	◎	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	日頃より、災害時の避難待機場所の協力をお願いしている。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	ぐんちゅう便りや推進会議の報告などを地域に向けて発信している				事業所には地域住民から相談があったり、認知症の高齢者が敷地内に迷い込み、家族などに連絡を入れたりしたこともあったが、わずかな相談件数に留まっている。管理者は、事業所としての相談機能等が少し弱いと感じている。今後は、地域に認知症に関する知識の普及啓発をするなど、市担当課や地域包括支援センターなどの他機関と連携を図りながら展開していくことを期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	地域の方より介護の相談を持ちかけられ助言を行うことがあった		x	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	秋まつり・介護講座など地域の人たちが集まることのできる環境を整えている				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	介護職希望のボランティア活動・職場体験実・介護実習・インターンシップ等の受け入れがある。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	地域活動を協働しながら行う事は出来ない			△	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 2 年 11 月 6 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 16名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3871-000190
事業所名 (ユニット名)	ユニットぐんちゅう B棟
記入者(管理者) 氏名	森田 みずほ
自己評価作成日	令和 2 年 10 月 1 日

<p>【事業所理念】</p> <p>《理念》 悔いの残らないお世話をさせて頂きます</p> <p>《ケア理念》 和らかい言葉・温かい雰囲気・安心できる居場所</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>1.利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫感をたもらさないよう、日中は玄関に鍵を掛けなくても済むよう工夫する。</p> <p>○「閉める一状況に応じて開ける」という意識から「開ける一状況に応じて閉める」と言う意識に替える。 ◎朝8:00～夕18:00まで玄関の鍵を開けている。しかし、地域の人たちとの話し合いの中で社会情勢(事件など)により「開けておく事」の怖さについて考えさせられる。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所は全体的に穏やかでのんびりとした雰囲気があり、利用者自身が職員と話し合いながら決めた思い思いの生活スタイルで過ごすことができている。ケア理念にある「和らかい言葉、温かい雰囲気、安心できる居場所」を感じさせる事業所となっている。日々の生活の中で、利用者と職員はともに声をかけ合い、安心できる生活を実現するための工夫が随所に見られる。また、事業所では利用者のリハビリにも力を入れており、毎日1時間程度体操を取り入れるなどの心身機能の維持にも取り組んでいる。さらに、法人・事業所として、エルダー制度の導入など人材育成に取り組んだり、昼休みや休日の取得にも配慮したりするなど、働きやすい職場づくりに努めていることもあり、長年勤めている職員も多い。</p>
--	--	---

評価結果表

項目No.	評価項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える								
(1)ケアマネジメント								
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	<p>a 利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。</p> <p>b 把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。</p> <p>c 職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。</p> <p>d 本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。</p> <p>e 職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>日常生活の中における観察をもとにして、職員は声をかけながら利用者の思いを聞き取りをしている。アセスメント用紙や日々の経過記録、申し送りノートなどで、利用者の思いを記録に残している。</p>
2	これまでの暮らしや現状の把握	<p>a 利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。</p> <p>b 利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。</p> <p>c 本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。</p> <p>d 不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)</p> <p>e 利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>◎</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>入居前に、利用者の自宅等を訪問し、職員は家族や居宅介護支援事業所の介護支援専門員のほか、介護サービス事業所からも情報を得ている。また、入居後の利用者の暮らしの様子は、職員は見聞きした情報をまとめている。</p>
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	<p>a 把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。</p> <p>b 本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。</p> <p>c 検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>朝夕の申し送り時のほか、15時頃に簡単なカンファレンスを行い、職員同士で情報を共有している。また、3か月に1回カンファレンスを実施している。利用者と職員は話し合いながら、思い思いの生活スタイルで過ごせるよう支援している。</p>

愛媛県グループホームユニットぐんちゅう

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の言葉を大切にしその深層心理に迫る。また、そのために客観的にどのような支援が必要かを考える	/	/	/	各利用者の担当職員は話を聞きながら、計画作成担当者が介護計画を作成している。利用者や家族の意向も聞き、取り入れることができている。参加できない職員は前もってメモ書きを記載してもらうことで、意見を伝えている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人の毎日の言葉の中で、ご家族とは面会時などコミュニケーションに動機反映されるように努めている	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	意思の疎通が難しい方に対しても尊厳を保持し穏やかに安全過ごせるような内容に動いている	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	古くからの知人や家族の協力を盛り込んだ内容がある	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	日々の記録にケアプランを記入し、職員がいつでも確認しやすいようにしている	/	/	○	日々の記録には、介護計画の目標が記載されており、職員は目標を意識しながら記録できるよう工夫している。記録には、利用者のそのままの言葉を書き留めている。定期的に各利用者の担当職員を中心にモニタリングを実施し、利用者の状況を確認するほか、カンファレンスの記録もまとめて記載している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	定期的にモニタリングを行い介護計画に沿ってケアが出来ているかカンファレンスを行い、日々の支援に繋げている。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	日々の記録には、本人の言葉や行動・エピソードなど暮らしの様子や支援した具体的内容を記録している	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	気づいた事や取り組むこと医療について個別記録に記入している	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	三ヶ月・六ヶ月または状況に応じて見直しを行っている	/	/	○	定期的な介護計画の見直しのほか、利用者の状態が変化した場合には、随時計画の見直しをしている。また、定期的にモニタリングを実施して、評価している。カンファレンスでは各利用者の担当職員が情報をまとめて見直しを行い、計画作成担当者が介護計画を仕上げていく。カンファレンスには、事前に家族からSNSや電話を活用して意見を聞くほか、利用者本人が話し合いに参加することもある。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	状況に応じてモニタリングを行い現状確認を行っている	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	入院や心身の状態の変化等により必要に応じて、現状に即した新たな計画を作成している	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	定期的・朝の申し送り時、又は必要に応じてその都度話し合う機会を設けている	/	/	○	朝夕の申し送りのほか、15時のおやつ時間を活用してミニカンファレンスをすることもある。定期的に開催するカンファレンスを含め、各利用者の担当職員が日程を決めることから中心となり、当日の参加者で検討している。当日参加できない職員は、事前に意見の書いたメモを渡してもらっている。カンファレンス記録を作成するほか、話し合われた内容は申し送りノートを活用して共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	多職種のメンバーが集まれる間環境を作り活発な意見交換の場に繋げるよう調整している	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	勤務表の調整や日程の調整を行い少しでも多くの職員が参加できるように努める	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	話し合われた内容は報告書を経て、または申し送り・申し送りノートを活用し周知に努める	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りノート・個別記録を活用し、朝夕の申し送りで全体について、一日に流動的に起こる出来事についてはその都度共有している	/	/	○	職員は最近の記録をまとめたファイルや申し送りノートを、毎日出勤時に確認して情報共有をしている。申し送りノートの確認後に、職員はサインをしている。また、昼の休憩時間を活用して、職員はミーティング記録等も確認している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	申し送り・申し送りノート・個別記録を活用し情報の共有に努めている。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	生活の中で、臨機応変に支援することを意識し、難しい場合でも調整する努力を行っている	/	/	/	行事や事前に決めてある事柄もあるが、日々過ごすスケジュールは利用者本人と職員が話し合い、できる限り利用者によって決められ、本人に合った生活スタイルで過ごせるよう努めている。新聞紙のゴミ箱づくりや塗り絵、植木の水やり、花を活けるなど、職員はやりたいことの中から、利用者本人の希望で決めた内容をしてもらうことができている。食事のリクエストを聞いて取り入れたり、お茶やコーヒー、紅茶などの飲み物も利用者を選んでもらったりできるよう支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	時間や環境の許す限り、花を摘んだり神社へのお参りなど、日々の暮らしの色々な場面で利用者の自己決定を促している	/	/	/	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	利用者一人一人の言葉や態度表情をよく観察し、本人のこだわりや希望に合わせたケアを出来るように努めている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	生活リズムが崩れないよう配慮しながら一人一人のペースやタイミング習慣を大切に支援している。	/	/	/	
		e	利用者の活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	ケア理念にある和らかい言葉、温かい雰囲気や大切に利用者の笑顔を引き出せるように努めている	/	/	/	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	ケアを行う際には丁寧な声掛け、介助を行い表情やしぐさを観察し、本人の意向に添えるよう努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	定期的に不適切な対応・言動について話し合う機会を作り、常に意識できるよう努め行動している	◎	◎	○	利用者本人の希望に合わせて、日常的にも居室の扉を開閉している。トイレや入浴の際には、職員はさりげなく声かけを行うなど、利用者のプライバシーに配慮している。また、来訪者や電話の問い合わせについても、職員は利用者確認して対応することができており、「○○さん、電話問い合わせNG」などのメモを貼って職員間で共有することもある。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	利用者一人一人に合った声掛けやタイミングを見計らい、目立たずさりげなく支援できるよう努めている	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	トイレの扉が両側が開くことで、車椅子での利用者もプライバシーを守りながら安全に使用できるようにしている	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	一人一人の要望や、心身の状況により十分に配慮しながら出入りを心がけている	/	/	/	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	職員は本社面談にて、プライバシーの保護等の説明を受け理解し守っている	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者にも助けを求めたり教えをもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	人生の先輩である利用者から教わることは多く、感謝しあえる関係性を築いている	/	/	/	利用者同士の仲がスムーズにいくように、職員は利用者がしんどい思いをすることがないような席の配置を検討している。職員は様々な活動や作業を利用者にお願ひし、実施後に職員から、「助かっている」と感謝の声をかける関係性が築かれている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者同士の特性を生かし助け合い支え合える場を意識している	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	時間帯や状況により席の配置を替え、孤立する事のないよう、また共同生活が安心して行えるよう配慮しながら支援に努めている	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者にも不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルの起こりうる場面についてスタッフ間で情報を共有し、トラブルを未然に防げるように努めている	/	/	/	

愛媛県グループホームユニットぐんちゅう

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	アセスメントを主として、日々の会話や家族との会話に努め、本人を取り巻く人間関係についてスタッフ間で共有している	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人の話や家族・地域の話をもとに、把握し職員間で共有している	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	家族の協力やスタッフ対応にて墓参りや知人宅に行くなど本人が大切にしてきた場所や人などの関係性が途切れないように支援している	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	時間を問わずいつでも気軽に来て頂き、玄関先やホール、居室等その時の状況に合わせゆつくりと過ごしてもらえるよう工夫している	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	自宅の様子を見に行くなど、利用者の希望に沿って戸外に出掛けられるよう支援している。また難しい時でも、利用者と一緒に日程を調整し希望にそえるよう努めている。	○	△	○	事業所周辺を散歩したり、ドライブで花見やいちご狩りなどに出かけられるよう支援している。現在のコロナ禍で外出は控えているが、天気の良い日には、毎日近くの神社に散歩して出かけたり、外に出て外気浴ができるよう支援している。不穏な利用者には外に出ないものの、玄関で飼育しているウサギを見ながら、気分転換してもらうこともある。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	ボランティアや認知症サポーターに協力してもらう事はない	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	重度の方でも体調を見ながら、庭で太陽や風を感じて頂けるよう支援している。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	日常の会話の中で行きたいところ、行けそうな所を模索しているが出掛けた事例は無い	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	職員全員が研修会に参加し勉強している。研修報告書を用いて知識を共有している	/	/	/	法人・事業所として、利用者のリハビリにも力を入れており、肩こり体操を取り入れ、肩こりが治った利用者も多い。生活機能の維持・向上に関する専門職からのアドバイスを活かして、利用者の生活上の活動にも取り入れている。また、毎日利用者は昼の時間帯に1時間程度運動を行い、身体機能の維持にも努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	主治医・看護師・係りつけ医・行療法士等と相談しながら一人一人の状態に合わせて維持・向上が図れるよう生活機能向上プラン計画を作成し取り組んでいる	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	更衣や洗面、入浴やトイレ内では出来そうなが多く見守ったり一緒に行うよう心掛けている	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	本人や家族の話聞きながら、その有する能力について考え、今現在、どのようなことが楽しみや役割になるのかを考え話し合っている	/	/	/	玄関の花を活けることや植木の水やり、掃除、新聞紙のゴミ箱づくりなど様々な役割があり、職員は上手に声をかけながら、利用者一人ひとりができることを行えている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	眠る前のお勤め(般若心経を読む)を勤めたり、湯船に浸かる時間に一曲歌うなど一人ひとりに応じた支援を心がけている	○	○	◎	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地方祭や地域の集まり毎に参加する事で楽しみや張り合いを持つことが出来ている	/	/	/	

愛媛県グループホームユニットぐんちゅう

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	朝の身支度や入浴時など、本人と相談しながら用意している。季節に応じた服装等そつと助言している				利用者本人にタンスから衣服を選んでもらい、整髪も自ら行っている利用者もいる。服の乱れなどが見られる場合には、職員が利用者に配慮しながらフォローをしている。2カ月おきに、訪問美容を活用して、散髪などの整容もしている。また、重度の利用者も着替えて外出やリビングに出たり、マッサージを取り入れた支援もしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	本人の希望に応じ、家族に相談したり一緒に買い物に行くなど本人の好みに整えられるよう支援している				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	自己決定がしにくい利用者には、家族に相談したり、本人の表情や言葉を観察しながら支援している				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	個々の用意した服は普段の着やすい服が多いが、本人のこだわりを監視しながら外出時に一緒に選んでいる				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	タイミングを見計らい、さり気なく助言・お手伝いしている	◎	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	希望の理容室へ家族と行く人、知人の理容師に訪問してもらう人もいる				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	訪問理容の方と相談しながら、本人らしい髪型にしてもらっている			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	主治医からの指示や栄養士の助言に従い栄養状態を把握しながら食事の楽しみや大切さを意識している				外注業者が献立を作成し、メニューの食材を配達され、職員が調理している。利用者のリクエストを取り入れたり、業者の献立を選んでもらったりするなど、食事に関する気持ちを持ち続けてもらえるように配慮している。湯呑みと茶碗は利用者自身の物を使用し、食器類は陶器を使用して、暖かい雰囲気ですべて食事をしている。配膳や下膳の手伝いは利用者自らしてもらっている。職員は普段の食事時間は休憩を取りながら情報交換などを行うことを重視し、月に1～2回のイベント時に利用者と一緒に食卓を囲むスタイルとしている。また、事業所には栄養士もおり、協力医に相談して糖尿病などの疾患に対応した食事メニューなどの工夫をしたり、おかゆやミキサー食など食事形態にも対応したりしている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者ともに行っている。	○	野菜の皮むきやもよしの根切りなど個々の利用者の特性を生かし一緒に行っている			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	週に数回いなりや草餅など、普なじみのものを一緒に作り教えて頂いたりしている				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	入居時のアセスメントで把握している。生活の中でも観察し、苦手な物等冷蔵庫にメモ書きをしている				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味を取り入れている。	◎	メニューは外部で作成しているがそれを基に栄養士に相談しながら、利用者さんと季節を感じる料理や、懐かしいおやつなどを楽しめる内容を取り入れている			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いらずや器の工夫等)	◎	利用者一人一人の状態に合わせて調理方法や盛り付け分量を調整している。ミキサー食で過ごしていた利用者の身体機能の向上に伴い普通食へと変更することが出来た例がある				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	茶碗や湯飲みは出来るだけ陶器を使用している。風合いや使いやすさを重視している			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	職員の休憩時間を確保するために食事を別にしている。職員は一人一人の様子を観察しサポートを行っている。月に数回イベント食を行い職員も同じ食卓を囲めるようにしている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	献立の内容を伝えながら食事介助を行っている。楽しい中で食事が出来るようみんなと一緒に食卓を囲み、雰囲気づくりに配慮している	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	一日の水分摂取量や食事摂取量が集計されており、栄養士・看護師は定期的に評価している				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	本人の好む飲料または食べもの(食べ方)を勧める。主治医に相談し栄養補助飲料等を活用し低栄養や脱水を防ぐ				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	利用者の日々の心身の状況に合わせて職員でその人に合った調理法形態について話し合い調理している。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	使い捨てビニールエプロンを着用、魚やお肉を調理するときは手袋や別のまな板を使用している。調理用具・食器類は洗浄後乾燥機を使用してから収納している				

愛媛県グループホームユニットぐんちゅう

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	歯科医に口腔衛生管理の助言を頂き、必要性重要性の理解に努めている				毎食後等には、脱衣場にある洗面台を使用し、歯ブラシや歯磨き粉を準備しておき、できる限り利用者自身で行ってもらっている。毎月歯科医の訪問があり、歯科医や歯科衛生士に相談して、日々の口腔ケアや口腔体操を行っている。口腔内の異常が見られた場合には、歯科医の往診等につなげている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	食事の様子や食事を観察し異変を予測し口腔ケア時に状態を確認し早期発見に努めている			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	訪問歯科や歯科衛生士からその人に合った口腔ケア方法について指示、情報をいただき支援に活かしている				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	拒否がある場合は時間をかけて声掛けしたり、お茶を飲んで頂き残渣物を流殺菌する等状況に合わせている				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	一人ひとりに合わせたタイミングや声掛け準備を行い、口腔内の清潔が保て、利用者の力が引き出せるように支援している			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	発見次第、歯科医師や歯科衛生士に相談し往診や受診などの対応を取っている				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	職員は施設内・施設外での研修に積極的に参加し排泄の自立の重要性について学び、本人の出来る事に着目しながら排泄の自立に繋がるよう支援に努めている				職員は、利用者一人ひとりの排泄のタイミングを把握しており、利用者の状態を観察しながら声をかけてトイレ誘導をしている。事業所では下剤に頼らない支援に努めており、牛乳や寒天などの排泄を促しやすい食材を活用するほか、職員は体操やマッサージ、ツボ押しなども取り入れる工夫をしている。昼夜ともに、おむつをしている利用者もいるが、布パンツにパッドを使用して過ごす利用者も多い。排泄用品の使用についても職員間で話し合い、利用者や家族に確認して使用している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	主治医や看護師からの説明や勉強会等で理解できている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排便チェック表や個人記録に記録し、個々の排泄状態を把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	日々の生活の中で状態観察を行い変更が必要な時は家族に相談している	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	排便チェック表をもとに主治医や看護師に相談して改善に向け対応している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	排泄の失敗の多い方や緩下剤を服用した方には、早目に声掛け誘導を行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	理解できる方には、本人に解り易く説明している。重度の方には、家族に状態を詳しく相談して、同意を得ている。職員の一方的な選択はしていない。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	◎	適時使い分けを行っている				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	個々に合わせた水分補給に努めている。毎朝の体操や伊予踊りで体を動かしたり、自然排便を促す取り組みを行っている				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	◎	基本入浴日を決めていますが、一人一人の希望や習慣に近づけることが出来るよう支援している	◎		○	一般的な個別浴槽の中に座れるような段があり、利用者は週2回以上入浴をすることができる。管理者等は、「入浴は職員とゆっくりと会話ができる場である」と捉えて、職員は利用者との会話をしながら楽しく入浴できるように配慮している。職員は手を出さず、自分で洗うなどできることはしてもらおう支援している。また、好みの入浴剤や愛用の洗顔を使用している利用者もいる。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	利用者一人一人のペースを大切にゆっくりとくつろいで入浴できるよう努めている				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来る事は本人にして頂く。全介助が必要な場面では二人で介助することもある				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	言葉かけに工夫して、なるべく入浴を勧めるが、本人が嫌がる時は、決して無理強いはいしていない。日を変更することは、度々あった。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	毎朝のバイタルチェックや本人の状態を確認し、看護師に相談している。入浴を清拭に変更することもある。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	ほぼ把握できている。不穏状態・排便の様子によっても左右されることを念頭に置いている	/	/	/	職員は利用者の日中の運動量を多くし、昼寝も1時間程度取り入れるなどの生活スタイルで、夜間はよく眠れている。眠剤を服用している利用者もいるが、医師と相談しながら対応している。眠れない日が続いても、職員は時間をかけながら利用者の生活リズムを整えるよう努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	時間をかけゆっくと生活リズムを整えるようにしている	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	眠前薬を服用している利用者2名。夜間の状態を申し送りし、日中の過ごし方や出来事を話し合い、医師と相談しながら良質な睡眠が出来るよう支援している。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	朝食後や昼食後声掛けを行い本人の意思応じて又は必要時休んでいただく	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	携帯電話を使用している方・タブレットでテレビ電話を行う方・スタッフルームから家族にお電話される方、それぞれの希望に添いながら支援している。	/	/	/	/
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	季節の絵手紙など一緒に作成しお送りしている。タブレットを使いテレビ電話と一緒に面会・お話をしている	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	一人一人の状況に応じてスタッフが側で見守ることもあった	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いたお手紙や葉書には本人・スタッフが文章や絵手紙など出来る範囲でのお返事を心がけている	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	希望時には、ご家族の都合を確認しながらお電話をしたり、面会が難しい時でもお手紙を頂くなどしてもらっている	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	利用者が所持金を持ち、自由に使えることは良い事だと理解する。	/	/	/	/
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	お金の所持はないがスタッフ同行の元ホームの財布で金を払う機会を作っている	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	靴の購入などは、業者ではなく商店街の靴屋さんに行っている。状態や症状の理解を得ながら利用者に向けた靴選びをお店の方と利用者と一緒にしている	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族と相談しながら希望・能力に応じて所持している人もいる。難しい利用者にはスタッフ同行により使える場面を提供している	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	本人家族と話し合っている。お互いに納得が出来るよう話し合いを重ねている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	基本、金銭管理は家族にお願いしている。金銭管理が出来ない生活保護の方は書面上での同意の上、会社で管理・保管している	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	身寄りのない生活保護利用者について長寿介護課・生活保護課・成年後見制度を利用し担当者会議を行い今後の支援について話し合った	◎	/	○	利用者や家族の希望に応じて、職員は家族との面会に同行したり、自宅に荷物を取りに帰ったりするなどの援助をしている。利用者や家族の希望に、職員は柔軟に対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	建物まわりに外壁はなくオープンな雰囲気である。庭には、木や草花を植えている。玄関は明るい印象である。	◎	◎	○	日中玄関は開けたままにしており、玄関外にはベンチが置かれている。日当たりがよく、明るくて入りやすい雰囲気となっている。また、玄関横には畑があり、野菜を栽培は農業高校の高校生が指導してくれている。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	共有の空間はシンプルに整えられており清潔感がある。壁やスペースには利用者で作成した作品や利用者の手の届く範囲に生活用品(湯飲みや急須・ハンガーや洗濯バサミやほうきなど)が置かれている。玄関には近所の方作品が飾られている	○	○	○	共有空間には大きな字のカレンダーや日めくりがあるほか、歌詞や利用者が作った作品も飾られている。毎朝、職員が掃除し、天窓からの明かりもさして明るく居心地の良い空間となっている。玄関ではウサギを飼育しており、利用者は楽しみにして見に行っている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	主要道路と離れており不快な音や臭いは感じられない。毎日の掃除や整理整頓も利用者と一緒にやっている					
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	各部屋の窓辺にはハナズキ・桜・畑など楽しみがある。また居室利用者と相談しながら仲の良い利用者と一緒に窓辺で過ごしてもらう事もある					
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	一人部屋だが仲の良い利用者同士でお茶を飲みながら外を眺めたり、本人の意思で扉を開け閉めして過ごしている					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	◎	トイレや浴室はホールからは見えない設計になっている。洗面所から脱衣場が見えないようカーテンで仕切りをつけている					
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入所時に本人の馴染みの物の持参を声かけている。生活していく中で本人が取り組んでいることをまとも写真や文集など新しく馴染みの物になるよう工夫している	◎		○	事業所ができて年数が経過していることもあり、順次居室の壁紙を張り替えている。居室には、ベッドやたんすなどが備え付けられている。居室の表示は、色や大きな文字を活用してを分かりやすくし、室内には馴染みの物を置いて利用者が自由に寛げるようにしている。	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	トイレの場所を記す張り紙は「赤い花」と「青い花」に置き換えたり、机や椅子には必要に応じて名前を貼るなど一人一人に合った工夫や声掛けをしている。			◎	お手玉や折り紙、本、パズルなど、利用者は自由に取って思い思いの活動をしたり、新聞紙の箱折りづくりなどをしたりしている。事業所内の表示に関しては、トイレの表示などに色をつける工夫をするなど、利用者に分かりやすくしている。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	一人一人の特性によりテーブルの位置や物品の位置等検討し認識違いや判断ミスが少ない環境を工夫している					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	整理整頓をしながら個々の趣味や能力に合わせて、色々な物品を置いている。新聞・チラシ・本・モップ・裁縫道具・編み物道具等・安全面に配慮している。					
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態であること、異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	代表者及びすべての職員は玄関に鍵をかける事の弊害を理解しており居室や各棟の出入り口の鍵はかけていない。玄関の鍵を掛けない事について、不審者などの出入りも想定する必要があり課題を感じている。		×	×	○	日中玄関のカギは開けており、ユニットの入口も自由に出入りできるようになっている。夜間は防犯面のため、玄関は施錠している。玄関でウサギを飼っていることもあり、利用者は玄関にウサギを見に行くこともあり、職員も一緒に付き添い見守りしている。ウサギのいる玄関は、利用者のくつろぎの場としても活用されている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	玄関を開錠している時、インターホンやお声掛けただくことなくご家族が利用者居室へ訪れていたことがあった。左記の内容とは違う角度からの安全の確保について話し合いもたれた。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	玄関は朝8時～夕方18まで開錠しており、自由に行き来できる環境を目指している。外出傾向を把握し安全に努めている。					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	入居時のアセスメントにて把握、バイタル表に一目で分かるように既往歴・定期薬・処置ケアがあり確認できる				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	毎朝のバイタルチェックや本人の表情、訴えにより異常の早期発見に努めている。日勤者と夜勤の申し送りを密に行い個人記録に残している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	医療連携看護師が24時間対応しているため気になる事はその都度相談している。また、看護師より、普段からかかりつけ医へ連絡相談を行い重度化の防止や適切な入院につながるよう努めている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入居時に本人・家族が希望する医療機関を確認している。入居後も変更等を希望する場合は相談に乗っている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	訪問診療を受ける方と病院受診する方がいるが、納得が得られた主治医との関係が出来ている。訪問診療時は看護師から状態を詳しく伝え、病院受診の方は書面での情報提供を来こなっている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診結果は、家族に伝えている。又、職員にも伝えたりメモ書きすることで全員が把握できている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時には、本人に関する情報を医療機関に提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	定期的にお見舞いに行き本人を元気づけると共に医療機関からの情報を得ている。家族との連携も密にとっている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	日頃からの関係を大切に、長く交流が出来ている。部屋の空き情報等も伝えており、お世話になることが多くあった。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	職員は気になる情報や気づきを医療連携看護師や訪問看護師に伝え相談している。24時間医療連携体制をとっており介護職は安心して業務をこなしている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	医療連携看護師が24時間対応を行っている。看護師より協力病院への相談や協働を行い連携できている				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	医療連携看護師の配置・主治医との連携、家族との話し合いを重ねている。訪問看護を利用し状態変化に対応している例がある				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬剤師からの指導や医療連携看護師から薬についての知識を得られている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	薬剤師・看護師・職員・本人が確認し飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	便秘時には、排便チェック表をもとに緩下剤を投与している。その際は看護師に確認している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	状態観察をし記録している。訪問医療時、看護師から主治医への状態報告をしている。				

愛媛県グループホームユニットぐんちゅう

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	家族の気持ちや状況は日々変化していくため、その都度家族と共に考えその意思を確認している	/	/	/	法人・事業所として、「重度化した場合における(看取り)指針」を作成し、入居時などに利用者や家族に説明して同意を得ている。また、終末期が近づいた時にも、説明のうえ再度同意を得ている。常勤看護職員に加えて、協力医や法人の看護職員の協力も得られるなど、事業所での看取り介護の協力体制は整っている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	事業所の方針を始め、かかりつけ医・協力医療機関との連携に勤め職員間でも共有出来るように努めている	◎		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	終末期の対応について職員にアンケートを行ったうえで看取りについての資料を使い現状での支援について話し合いを行った	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	「看取りの指針」「できること・できないこと」について医療連携看護師より詳しく説明している。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	重度化・終末期・看取り等は特別な事ではなく自然な事だと話し合っている。主治医の指示に従い、看護師と相談しながらチームで支援していく体制を整えている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	普段から家族となるべく多く話すようにしている。家族間の事情や心情の理解につとめた支援を意識している	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	感染委員会は年に2回以上、感染症内部研修は年に1回以上行い知識を得ている。スタッフ会議で感染対策委員から汚物処理の指導を受けた。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	感染症発生疑いのデモンストレーション・感染委員会の発足・感染症予防対策を定期的に行っている。また職員の意思を確認し法人内での協力体制を整えている	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	テレビや新聞、インターネット等からの情報を入手している。また事業所内で情報を交換している。県内での感染症発生事例について、勉強会を行い情報の共有に努めている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	管理者・看護師は県の「応援職員登録票」(感染症の影響を受けた施設等の派遣)に記載登録を行っている	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなども徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	職員・来所者は健康チェック表に記入している。県の感染症予防の対策に従い清潔が保持されるよう徹底している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	家族の面会時には、本人の日頃の状態を詳しく説明するようにしている。本人がよりその人らしく生活できるよう家族と話し合い支援に繋げている。	/	/	/	職員は、家族に電話やSNS、お手紙などを活用して、利用者の近況を伝え、意見や要望を聞いている。毎月、事業所便りを家族に送付している。家族の面会に加えて、昨年度は運動会や芋炊きなどの行事の機会にも、家族の参加が得られている。また、事業所の様子は、運営推進会議の中で報告し、看取りに関する報告なども行っている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	感染症予防の観点から来所の機会は減っているが、感染対策による面会やタブレットでのオンライン面会などの対応を行っている	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	運動会・芋炊き・秋祭りなど家族が参加できるような行事を行っている	○	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	行事や日頃の生活の写真入りのホーム便りを定期的に郵送している。キーパーソンだけでなく多くの家族へのホーム便りの送付もしている	/	◎	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	家族からの知りたい事や不安な事の相談にはその都度対応した。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会が頻回にある家族には、良い関係が長く続けられるよう、また、疎遠の家族には本人の状態を伝え面会の機会つくっていただくようお願いした。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得ようとしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営上の事柄や出来事はその都度、または運営推進会議にて報告し理解・協力をえている	○	/	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	行事事に参加した家族は少なく家族の交流までには至っていない。家族会や旅行の機会もなかった。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	不安感のある利用者の支援策としてご家族に協力を得ながら安心できる環境について話し合い対応をおこなっている	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	家族が意見を遠慮なく言える雰囲気作りを心がけている。来訪時には積極的に声掛けを行ったり電話やラインを利用しコミュニケーションに努めている	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約内容の変更は文書を送り、面会時にも情報を提供できるよう努めた	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	利用者・家族の意見を聞き相談のうえ次の受け入れが決まってから退去に至っている。トラブル等はない。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約時には、契約書に沿って詳しく説明している。納得・同意の上、書面上で契約している。一部は家族控えて保管して頂いている。おむつ代金変更があったが、その理由と変更金額を書面で報告した。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	地域運営推進会議や避難訓練などで事業所の目的や役割などを説明し理解を図っている	/	○	/	日常的に近隣住民と挨拶を交わしたり、地域行事などに参加したりする機会を活用して交流をしている。事業所として、地域の防災訓練にも参加している。中学生の職場体験や高校生の野菜栽培などのボランティアを受け入れたり、幼稚園児や小学生との交流をしたりしている。野菜を差し入れてくれる地域住民もいる。また、管理者等は、運営推進会議や事業所の行事案内をするなど、地域住民の事業所への来所を促し、地域の理解が深められるよう努めている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	近隣の方とは、日常の挨拶・秋祭りやお茶会など様々な交流に努めている。地域の活動(避難訓練)に参加している	/	×	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	行事や勉強会など地域の方たちの来所が多くなり、見守ったり支援してくれる人達が増えてきている	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	秋祭りや芋炊きなどを庭で行う事により地域の方が気軽に立ち寄って下さっている	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	◎	近隣住民が伊予市の広報を利用者に持ってきてゆっくり話をしたり季節の野菜を頂いたりするなど日常的なお付き合いをしている	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	推進会議や、活動報告や行事案内などを用いて近隣住民に働きかけを行っている。活動の支援とまではいかないが、行事などで、地域住民の来所により利用者との関係構築している	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	◎	馴染みの理容師の訪問を受け利用者本人が豊かな暮らしを持続することが出来ている	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	高校生の課外活動(園芸セラピー・傾聴ボランティア)幼稚園の運動会参加や避難訓練の実施など、日頃から関係を深める取り組みを行っている	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	運営推進会議には、毎回決まった方の参加が多い。感染症予防のため今年に入り自社のみで行っている。	○	/	○	運営推進会議は、利用者や家族、民生委員、市担当者等が参加して、年6回実施している。今年に入り、新型コロナウイルス感染症対策のため、書面での開催となっている。以前より会議への家族の参加は増えつつあり、参加していない家族には資料など会議報告を送付している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	毎回、利用者の入居状態と生活上の状態報告をしている。自己評価・外部評価の内容と取り組み報告もしている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	地域運営推進会議の内容の結果は、毎回、市役所長寿課と本社に報告している。地域への報告は訪問し対面で報告をしている。	/	△	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	◎	感染症予防の観点から今年の開催は自社のみとなっているが書面にて各所報告を行っている。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	推進会議の議事録は市役所・地域包括支援センターへ公表している	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	「悔いの残らないお世話をさせていただきます」を基に「和らかい言葉・温かい雰囲気・安心できる居場所」をケア目標とし、第二の我が家になるよう、職員皆で日々取り組んでいる	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	ぐんちゅう便りに記載したり、玄関・ホールに「理念」「目標」を掲示するなどしている	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	実践者研修・相互研修・リーダー研修・管理者研修などの研修を受けることが出来るよう取り組んでいる	/	/	/	新入職員には、エルダー制度を活用して教育が行き届き、年3回以上の研修参加の機会を設けることで、長年勤める職員も多い。法人・事業所として、昼休みや休暇の取得への配慮も十分になされており、働きやすい職場づくりができています。常日頃から、管理者は職員と会話し、意識して働きやすい職場となるよう努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	スキルアップに必要な資格取得に必要な費用など会社が一部負担してくれている。主になる資格取得には勤務調整・全額負担など行うこともある。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	年に二回の自己評価や毎月の管理者会での情報等を元に職員個々の勤務状況を把握し各自が向上心を持って働けるよう職場の環境条件を整備している	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	一般社団法人愛媛県地域密着型サービス協会に加入し相互研修等参加している 市内のグループホーム・ネットワークに参加し、連絡会・研修会に参加している	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	休日希望・有給休暇や個々の職員の個性や特技などが生かせる様な職場づくりをしている	○	◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	年2回の内部研修を行い理解している。参加できなかったスタッフには資料を提供している	/	/	/	内部研修のほか、法人全体で「身体拘束・虐待防止」をテーマに取り上げた研修を実施し、職員は理解している。不適切な対応が見られた場合には、意識して職員同士が注意し合っている。また、定期的に身体拘束・虐待防止委員会を開催し、話し合いができています。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	管理者は通常の介護業務を行い職員と共に日々のケアについて振り返ったり話し合ったりしている	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	職員がお互い注意し合える環境づくりに努めている	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	疲労が溜まらないよう勤務調整している。支援の難しい利用者には一部のスタッフのストレスにならないよう全員で対応するようにしている	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	年2回の内部研修にて知識を得ている	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	年4回身体拘束・虐待防止委員会開催し現場の状況に照らし合わせ点検、話し合いを行っている	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	今は対象者はいない 玄関など可能な限り施設せず開放的な雰囲気になっている	/	/	/	

愛媛県グループホームユニットぐんちゆう

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	○	研修など参加し知識を広げようとしている				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	悩みや相談事には日頃から親身になって話を聞くように心掛けている				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	弁護士に相談できる体制がとられている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	事故発生時に備え対応マニュアルを作成し周知している				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	消防署での勉強会に参加したり、看護師の指導を受けるなど実践力を身に付けている				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	事故に繋がらぬ小さなこともインシデント・アクシデントにまとめている。毎月の安全委員会で話し合い改善策をとっている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	日々の暮らしの中での気づきを大切にしている。気になることは放置せずその都度見直し・改善している。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応のマニュアルを作成し適宜対応方法について検討している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情は寄せられていないが速やかに手順に沿って対応できるようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情は寄せられていないが速やかに手順に沿って対応できるようにしている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	◎	介護相談員が2か月に一回来所し、利用者の思いや・悩みを聞き、助言を行ってけている			○	利用者からは、馴染みの職員が普段の会話の中で意見を聞くほか、定期的に訪問のある介護相談員からの情報も得て、利用者とのかわりを見直している。家族からは、面会や電話連絡時に意見を聞いている。また、事業所内に相談窓口や意見箱を設置しているほか、法人本部にも相談できる場所があるなど、多くの窓口を設けている。職員からは、管理者が目標シートを活用しながら年2回話し合う機会があるほか、普段の会話で意見を聞き、事業所運営に活かしている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	法人事業所の相談窓口があるが、個別に伺う機会が多い。	○		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	意見を聞いている事業所の相談窓口や意見箱の設置があり、相談をもって行かれたケースがあった。法人関係者・ご家族・事務局での話し合いがあった。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	年に2回個別に面談を行い職員の思いを聴く機会を持っている				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	日頃から、職員一人一人とのコミュニケーションに勤めると共に、目標シートの評価や自己評価等により多くの意見や提案を聴く機会を持ち、常に一緒に利用者本位について考えている			○	

愛媛県グループホームユニットぐんちゅう

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	サービス評価の意義や目的を理解し、年に2回自己評価に取り組んでいる。				自己評価は職員全員で取り組んでいることもあり、職員は理解できている。自己評価やサービスの評価結果から、職員が課題に関する目標達成計画を作成し、取り組みを進めているほか、年2回取り組み状況を確認している。サービス評価の結果は、運営推進会議で報告し、参加者から意見をもらっている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	職員は、自己評価を通して事業所の現状を見つめ直し、課題を明確にして意識統一している。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	結果を踏まえ目標達成計画を作成し、事業所全体で取り組み継続している				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	評価結果と目標達成計画は、地域運営推進会議にて、家族・市役所・地域内法支援センター他各責任者に報告している。	x	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	事業所内や地域運営推進会議にて目標達成計画の取り組みを報告している。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	様々な災害時の対応マニュアルがスタッフルームに置いてあり。全職員が周知出来るようにしている。				年2回、消防署や電気保安協会などの立ち合いのもと、昼夜等を想定した避難訓練を実施している。訓練には、近隣住民の協力も得られている。事業所として、災害に対するマニュアルが整備されているほか、3日分の水や食料などの備蓄品を用意している。法人が運営する他の2か所のグループホームの避難拠点を当事業所をしているため、実際に避難する訓練も実施している。また、地域の防災訓練にも参加協力ができている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるように、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	年2回の避難訓練は、消防署立会いの下で行っている。火災時の地震時の避難訓練(昼間・夜間の想定)ができた				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常食・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	定期的に消火設備、避難経路、非常食の食糧や物品の点検を行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	推進会議や避難訓練など日頃から地域住民や話し合いや訓練の場を持ち協力支援体制を確保している	x	◎	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	日頃より、災害時の避難待機場所の協力をお願いしている。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	ぐんちゅう便りや推進会議の報告などを地域に向けて発信している				事業所には地域住民から相談があったり、認知症の高齢者が敷地内に迷い込み、家族などに連絡を入れたりしたこともあったが、わずかな相談件数に留まっている。管理者は、事業所としての相談機能等が少し弱いと感じている。今後は、地域に認知症に関する知識の普及啓発をするなど、市担当課や地域包括支援センターなどの他機関と連携を図りながら展開していくことを期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	地域の方より介護の相談を持ちかけられ助言を行うことがあった		x	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	秋まつり・介護講座など地域の人たちが集まることのできる環境を整えている				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	介護職希望のボランティア活動・職場体験実・介護実習・インターンシップ等の受け入れがある。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	地域活動を協働しながら行う事は出来ない			△	